○引用文献
大桃定洋・福富宏和，2013．日本タマムシ図鑑．120pp. むし社，東京．
福富宏和・山田 航・瑤寺 裕・尾園 暁，2022．森の宝石。タマムシハンドブック．112pp. 文一総合出版，東京．

（Daisuke SATOMI　兵庫県立人と自然の博物館）

兵庫県南東部で 2025 年にチュウゴクアミガサハゴロモを撮影

宇野宏樹

チュウゴクアミガサハゴロモ *Ricania shantungensis* は，中国を原産とする外来種のハゴロモの仲間である（外村・大原，2024）．兵庫県においては，上郡町で 2022 年に発見されている（大貝，2023）．筆者は 2025 年に本種を兵庫県宝塚市および西宮市で撮影したので，近年の分布状況の例として報告しておきたい．

1ex.（写真 1），兵庫県宝塚市栄町阪急宝塚駅構内 . 5. X. 2025. 筆者撮影 .
1ex.（写真 2），兵庫県西宮市甲山町付近 . 6. IX. 2025. 筆者撮影 .

宝塚市産の個体は，阪急宝塚駅構内に落ちていた個体を撮影したものであり，西宮市産の個体は，植物体に静止していた個体である．本種は外来種とされているので，今後の動向に注意が必要だと思われる．

○引用文献
大貝秀雄，2023．上郡町で近年確認された新参外来昆虫．きべりはむし，46(2)：32-33.
外村俊輔・大原賢二，2024．チュウゴクアミガサハゴロモ *Ricania shantungensis* (Chou & Lu, 1977) の徳島県からの初記録．徳島県立博物館研究報告，34：77-80.

（Hiroki UNO 大阪府池田市）

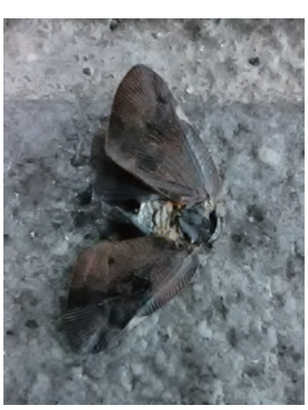
写真 1．宝塚市で撮影された個体．

写真 2．西宮市で撮影された個体．

神戸市須磨区でキムネクロナガハムシの死骸を発見

楠本悠貴

2025 年 12 月 14 日に神戸市須磨区で甲虫の死骸を 1 個体見つけた．家にもって帰ってハムシハンドブック（尾園，2020）で調べたところ，キムネクロナガハムシに似ていると思った．この昆虫は南太平洋諸島原産で，国内では琉球に分布していると書かれていたので，兵庫県にいるのはおかしいと思った．しかし，死骸をひろった場所は，この昆虫の食草であるヤシの木の下だったので，そのヤシの木に付いていたのではないかと思った．

2026 年 1 月 11 日にもう一度同じ場所へ調査にいった．今回の調査の結果，頭部，胸部，腹部がそろった死骸が 7 個，頭部が取れた死骸が 3 個，腹部のみの死骸が 1 個，上翅のみが 7 枚，幼虫と思われる死骸を 1 個見つけた．ヤシの葉には食痕が多く付いていた．単眼鏡でヤシの木を観察したが，生きている個体は見つからなかった．しかし，調査をしたヤシの葉には食痕が多く付いていたので，キムネクロナガハムシがヤシを食べたのではないかと思う．

図 1．神戸市須磨区で採集されたキムネクロナガハムシ．

図 2．1 月 11 日の調査結果．

2 月 28 日と 3 月 23 日にまた同じ場所を見にいった．死骸はあったが，生きている個体は見つからなかった．これからも生きている個体がいないか，キムネクロナガハムシの死骸が増えていないかを調査をしていきたい．

末筆ながら同定いただいた森 正人氏，ご協力いただいた山本紘子氏(箕面公園昆虫館)に厚くお礼申し上げる．

○引用文献

尾園 暁，2020．ハムシハンドブック．文一総合出版，104pp.

（Haruki KUSUMOTO　兵庫県明石市）

姫路市でコガタノゲンゴロウを採集

楠本悠貴

2025 年 10 月 5 日に姫路市でコガタノゲンゴロウを採集した．公園の池で水生昆虫を探していたらコガタノゲンゴロウが泳いでいた．網で捕まえて，まだいないか確かめたが 1 個体しかいなかった．

森 正人氏が書いた兵庫県のゲンゴロウ類目録（2）（森，2025）には姫路市の記録がないので報告する．

末筆ながら文章を見ていただいた森正人氏に厚くお礼申し上げる．

○引用文献

森 正人，2025. 兵庫県のゲンゴロウ類目録（2）. きべりはむし，48（2）：1–14.

（Haruki KUSUMOTO　兵庫県明石市）

図．姫路市で採集されたコガタノゲンゴロウ．

美方郡新温泉町でミズスマシを確認

泉山真寛

ミズスマシ *Gyrinus japonicus* は，全国的に個体数が急激に減少しており，環境省レッドリストでは絶滅危惧Ⅱ類（VU）に選定されている．また，兵庫県版レッドリスト 2022（昆虫類）では B ランクに位置づけられている．B ランクは，環境省レッドリストにおける絶滅危惧Ⅱ類に相当し，県内において絶滅の危険が増大している種，または生息環境・自生地等の保全が強く求められる種とされる．

本種は過去に新温泉町で記録があるものの，その後の新たな記録や生息情報は乏しく，生息地の減少も懸念されている．したがって，県内における本種の生息状況を把握し，生息地の確認と保全を進めることは重要である．

2026 年 5 月上旬の調査において，少なくとも 7 個体のミズスマシを確認し（図 1）採集した後，リリースした．希少種であるため詳細な地点情報は控えるが，今回確認した水域は，水田地帯に位置し，山間部からの流水が流入する透明度の高いため池であった（図 2）．水深は 70 cm 以上あり，水域全体が澄み渡っていた．

○引用文献

兵庫県版レッドリスト 2022（昆虫類）．https://www.kankyo.pref.hyogo.lg.jp/jp/environment/leg_240/leg_289/2022（最終閲覧：2026 年 5 月）．

（Masahiro IZUMIYAMA　兵庫県養父市）

図 1．新温泉町産ミズスマシ．

図 2．確認されたため池．